

平成 27 年 7 月 14 日

各 位

会 社 名 株式会社ネクスグループ  
代 表 者 名 代表取締役社長 秋山 司  
(JASDAQ・コード 6634)

問 合 せ 先  
役 職 ・ 氏 名 代表取締役副社長 石原 直樹  
電 話 03-5766-9870

## 第 2 四半期連結業績予想との差異に関するお知らせ

平成 27 年 1 月 19 日に公表いたしました平成 27 年 11 月期第 2 四半期累計期間(平成 26 年 12 月 1 日～平成 27 年 5 月 31 日)の連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

平成 27 年 11 月期第 2 四半期累計期間(平成 26 年 12 月 1 日～平成 27 年 5 月 31 日)の連結業績予想との差異  
(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想(A)	3,591	227	217	102	8 円 28 銭
今回実績(B)	2,200	△217	△231	△251	△17 円 75 銭
増減額(B-A)	△1,391	△444	△448	△353	
増減率(%)	△38.73%	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成 26 年 11 月期 第2四半期)	3,686	170	145	93	8 円 07 銭

注1) 平成 26 年 12 月 12 日から平成 27 年 2 月 5 日までの新株予約権の行使により、発行済株式数が 2,588,187 株増加しております。今回実績における 1 株当たり当期純利益は、当該増加株式数を反映して算定しております。

### ○差異の理由

ネクス単体のデバイス事業において、当初より今期及び来期以降の当社の売上に大きく寄与する自動車テレマティクス分野の新製品2機種の本格的な販売を下期にひかえている事と、今期上期は既存製品群から新製品への切り替えを行うための過渡期となっており、今期上期には既存製品のバージョンアップのための開発を行っていることから、既存製品の売上につきましても下期に大きく偏重しております。そのなかで、下記3点の理由により上期の売上が大きく減少を致しました。

① 前述した2機種の新製品は当該第 2 四半期に初期ロットの販売を予定しておりましたが、顧客

からの仕様変更の要求があり、製品の通信性能や機能向上に繋がり最終的に製品の販売に大きく寄与すると判断し、追加で開発を行なっており、当該四半期での販売を見送る事となり営業利益が約245百万円減少しました。当該開発につきましては、問題なく進捗しております。

- ② 既存製品のLTE対応のUSB Dongle 1機種において不具合が発生し、ソフトウェアの書換作業を行っており、その間の製品販売を見合わせており、営業利益が約120百万円減少しました。現在、ソフトウェアの書換作業は完了し、製品販売を再開しております。
- ③ 既存製品の3G対応のUSB Dongle 1機種において、製品販売先であるメーカーにおいて、当社通信機器を組み込む予定の製品の開発が遅延した事により、当該第2四半期からの販売ができず、営業利益が20百万円減少しました。既に販売先メーカーによる製品開発は完了しており、順次製品販売を開始する予定です。

上記理由により、当該第2四半期の売上高においては前年同四半期を下回る、2,200百万円（予想数値比38.73%減）となりました。販管費につきましては、ソフトウェア開発の外注費用の一部をネクス・ソリューションズで内製化できたことや、サーバー等の保守契約内容の見直しによるコストカットや、売上の減少に伴う変動費の減少はありますが、売上減少分を補うまでには至らず、営業損益につきましては、217百万円の営業損失（予想数値は227百万円の営業利益）を計上する結果となり、経常損益においては、231百万円の経常損失（予想数値は217百万円の経常利益）となり、四半期純損失は251百万円（予想数値は102百万円の四半期純利益）となりました。

通期業績につきましては、需要動向の先行き等に不透明な要素もありますが、現時点では下期の受注動向を踏まえ前回公表の通期業績予想値を据え置いております。ただし、平成27年6月1日公表の「株式会社SJIとの資本業務提携契約の締結及び第三者割当増資、新株予約権の引受による子会社化及び借入金に関するお知らせ」のとおり、株式会社SJIが連結子会社化となった影響につきましては精査中であり、判明次第速やかにお知らせを致します。

以 上